

「マニフェスト選挙、もうやめませんか？」

平成 26 年 12 月 9 日

● トップハンデさんからの質問

マニフェスト選挙、もう、やめませんか？マニフェストが優先ならば、議論は不要。議論が不要なら、議会が不要。議会が不要なら、議員が不要。議員が不要なら、選挙までもが不要。その延長線上にあるのは、アテネやスパルタに代表される古代ギリシアの都市国家なのか？

● 西田昌司の答え

最近「マニフェスト」ではなく「政権公約」といった穏やかな言葉に変わってきてはいますが、選挙の際に政党・候補者が有権者に対して細かい政策を示すことにあまり意味はありませんし、方針を示すだけで本来は十分なのです。

政治の世界においては一寸先は闇であり、選挙の時点で将来に渡っての細かい政策など示せるわけがありませんし、個別具体的な政策については、その時々状況に応じて決めていくしかありません。「政権公約は有権者との約束だろ？公約に書いたことは最後まできちんとやり通せ」などと叫ぶのは非常に子供じみています。

私はこれまでの選挙で、そのような細かい政策を訴えたことはありません。選挙の際に候補者は「人格」を示すべきであり、「いかなる事態になっても、この人ならまずは正しい判断をしてくれるだろう」と思える候補者に投票するのが選挙だ、という本質に気付かなければなりません。

常に正しい政策などありませんし、その時々状況によって正しい政策を

選択しなければなりません。例えば増税問題について考えると、私は国民負担率を上げるべきとずっと訴えています。国民の生活を守る為には、税・社会保障料の徴収という手段で政府の収入を増やし、必要な財政出動を積極的に行うべきという立場ですが、しかし、デフレ下の今に増税をすると却って経済が悪くなりますので、現状では国債を発行して銀行に余っているお金を吸い上げて使う方が望ましいのです。逆にインフレ期には増税をしても問題はありませんし、国債を発行し続けるとインフレがますます進行してしまいます。このように、正しい政策は状況によって変わりますが、「一度決めたことは必ずやる」というマニフェスト政治は議会政治の否定であり、議論を封じて思考停止に陥る危険に満ちています。

ところで、大東亜戦争や規制緩和の失敗は全て「思考停止」が原因です。あることに拘泥して状況も把握せずに突っ走ってしまい、結局あのような失敗に終わったのです。大東亜共栄圏の発想自体は正しかったのかもしれませんが、あの戦争をどうやって終わらせるかについては始めから考えていませんでした。マニフェスト政治には同様の「思考停止」が感じられますし、非常に馬鹿馬鹿しい話であり、断固として止めるべきと思います。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>